

人道プログラム

FTUB とそのネットワークからの報告

サイクロン・ナルギスに関する緊急活動

災害救助調整委員会 (DRCC)

FTUB

2008年7月21日

熱帯サイクロン、ナルギス(2008年5月2-3日)が、風速190キロメートル以上の速さで、ビルマの5つの地域(カレン、モン、イラワディ、ラングーン、ペグ)を襲った。このサイクロンは家、学校、道路、病院など、多くのものを破壊した。150万人以上が家を失い、150,000人から250,000人が命を落とした。損害の範囲を最小限に報告しようとして、政府が2008年5月16日に国営テレビで発表したサイクロンによる公式の死者数は、破滅的な嵐の2週間後にほぼ倍増し、78,000人が死亡、さらに56,000人が行方不明となった。赤十字と国連はともに死者数を100,000人以上と推定している。

サイクロン・ナルギスの襲撃直後には、家や親戚を失った生存者が避難所、食糧、医薬品および医療などの生活必需品を要求した。しかしサイクロンで生き残った人々は軍事政権からほとんど何も援助を受けなかった。それどころか、軍事政権は見せかけの国民投票を準備するために財源を使い、後には軍隊を利用して、救助物資や救援活動家がサイクロンで破壊された地域に入ることを阻止した。

FTUB(ビルマ労働組合連盟)は、軍事独裁者は苦しんでいる人々を救助する気がないことを知ったのである。そのような理由から、2008年5月12日に災害救助調整委員会(DRCC)がタイとビルマの国境のタイ側に設置された。DRCCは学者やスタッフとの最初の会合で、ビルマ内外の様々な専門家や学者を活用して、サイクロン・ナルギスの被災者に短期的には食糧、衣服、医薬品を、またさらに長期的には救援プログラムを提供する必要があることを決定した。会合で、我々は当面の活動と地域社会の開発・復興が直面している問題を話し合った。

平和で寛容な地域社会を再建する緊急の必要性に対処するためには、緊急のニーズに対処する必要があり、その中には、世界が注目しなくなった後に、地域社会と人々の生活を再建するために、基本的インフラを提供するプロジェクトが含まれる。DRCCは、洪水に見舞われた地域の社会経済的復興を推進するために、一致団結して地域の復興を推進することを決意した。FTUBはサイクロンの被災地の復興計画を真剣に検討しなければならないことを認識し、DRCCは次のような委員会を直ちに結成した。

災害救助調整委員会 (DRCC)

*委員長 - ウ・マウン・マウン

*コーディネーター - ウ・アウン・ティン

*管理/文書 - ナイ・ライ・タウ

*財務 - ウ・タン・ルウィン

*会計 - ナウ・ワー・ワー・パウ (ボランティア)

*会計監査 - ラッタナ (ボランティア)

*調達 - チットプント (女性)、ナウ・ワー・ワー・パウ (BKK)、サウ・ミン・ルウィン (マエ・ソド)

計画の目的:

- 長期、短期の両方のために、有能で信頼できる現地組織を通して、ビルマのサイクロン・ナルギスの被災者のための基金を集める。
- 軍事独裁政権による人権侵害とビルマのサイクロン・ナルギスの被災状況を確認する。
- 我が国における汚職の影響を確認し、民主主義実現のための我々の組織の活動に影響を及ぼす汚職の要因を確認する。
- ビルマ出身の我々の仲間とビルマの問題のためにタイで活動している我々の仲間を力づける。
- 様々な問題に関する ILO の短期、長期的な活動など、国際組織と FTUB との協力を強化する。

上記の活動によって、独裁統治全体の変化を優先させることが出来るかもしれない。FTUB はサイクロン・ナルギスの被災者の現状に関する人道支援プログラムを実施するために活動している。その活動にはビルマの内外から多くのボランティアが参加している。地域社会の政治情勢の劇的な変化や社会経済情勢、および FTUB の長期的展望に従い、人道支援の分野でより効果的な活動を実施するために活動を行う必要がある。

FTUB は、ILO、ITUC、ACILS、SEIU、フード連合、BWI 等、および人道支援のために活動している様々な民主的組織と相互に情報を交換し、良好なコミュニケーションを確立する必要があると考えている。FTUB はさらに、そのことが学校や診療所、宗教団体や宗教施設、図書館などを適切な場所に設置することにつながると考えている。また将来は、新しい民主的な政府の確立を支援することも出来るだろう。

DRCC / FTUB は、サイクロン・ナルギスが襲った地域で苦しんでいるビルマの人々に実質的な支援を提供するために、予算の再配分を行おうとしている。我々の人道プログラムとして、我々は基本的必需品 (食糧、衣服、住居および医療援助) を支援しようと努力し、高名な仏教の僧侶、教師、様々な宗教指導者と協力して、適切な場所で適切な人びとに援助を差し伸べるようにしている。

サイクロン被災者の救済と社会復帰のために、ビルマは何を必要としているか？

我々のビルマでの調査によると、我々は短期および長期計画の援助を支えなければならない。

短期的援助：

1. 国産の薬剤と伝統的な医薬品、あるいは薬草剤
2. 急性の呼吸器感染を診断するための（注射器を含めた）医薬品、飲み水の浄水剤、胃腸炎、赤痢、マラリアの薬品
3. 衣服（成人および子供用）
4. ろうそく、懐中電灯、および乾電池
5. 虫除け（蚊帳、殺虫剤）
6. 缶詰の食料品やインスタントラーメン
7. 高カロリーのビスケット、豆
8. 一時的な避難施設（屋根用の防水シートや垂鉛シート）

長期的援助

デルタ地帯はビルマの米の65パーセントを生産している。現在は、海水がすでに水田に流入している。農業労働者は学校や家を失っただけでなく、農機具や農業用の家畜も失ってしまった。このデルタ地帯で米を生産できなければ、ビルマは米の輸出国ではなく輸入国になってしまうだろう。従って、貧しい人びとのほとんどが、飢餓という破滅的状况に陥ることになるだろう。

1. 塩水が入った田畑を農耕可能な通常の肥沃な土地にする方法は何か、という問題。
 - a. サイクロンの被害を受けた農業労働者は、先進諸国（日本）の専門家のアドバイスや援助を受けるべきである。
 - b. （可能ならば）ビルマまたはタイで農業問題のセミナーかシンポジウムを開催する。
 - c. 塩水の入った田畑を通常の耕作用の肥沃な土地に改良する方法に関する指導書や論文を翻訳する。
2. 環境問題
 - a. 沿岸地域のマングローブの林を復活させる。
3. 教育問題
 - a. 学校の校舎を建築する
 - b. 学用品を援助する。
4. 健康問題
軍事政権は国民の健康を保護していない。医療ケアは行われていない。
 - a. サイクロン被災者のために薬品や医療を援助する。

5. 住居の問題

- a. 軍事政権は被災者を強制的に村に送り返した。被災者が家も何もないと言うと、当局は都市に住んでいる親戚の所に彼らを送った。僧院に避難している被災者までもが、自分の村や親戚に送り返された。軍事政権は、犠牲者は一人もないと言うことを、国際社会に示したいのである。そのような状況から、被災者のために小屋を建てた僧侶もいた。避難所の設備を送り、サイクロンの被災者のための避難所を準備しなければならない。

DRCC の協力体制（個人と組織を含める）

(1) プローン教育局（PEDU）

PEDU は仏教の僧侶とその組織によって運営され、食糧、衣服、医薬品、避難所をイラワディのデルタ地帯のサイクロンの難民に提供している。本部はビルマ、カレン州、パー・アンの町にある。

(2) サイクロン・ナルギス緊急援助（CNER）

CNER はモン州の地域団体が運営しており、本部はサングクラブリ（タイとビルマの国境）にある。同組織は食糧、医薬品、米、毛布、蚊帳、およびその他の必需品をモン地区、ペグ地区、イラワディ・デルタ地帯等のサイクロンの被災者に提供している。

(3) (a) シュウェボンテル・グループ、(b) メディア・グループ、(c) FTUB 現地移民代表（イラワディ・デルタ地帯）、(d) キリスト教の牧師

これらのグループはイラワディ地区とラングーン地区のサイクロンに襲われた地域で結成され、食糧、医薬品、衣服、その他の必需品などを提供して、サイクロンの被災者を支援している。

(4) ナイ・ラ教育チーム

教師で結成され、ラングーンおよびラングーン地区のタンラインに本拠地を置いている。このチームはサイクロンの被災者となった教師や生徒に学用品を提供している。またすでにサイクロンの被害に遭っている特定の学校を支援しようとしている。ナイ・ラ教育チームは 10 人の中心人物で構成され（88 世代学生グループと黄金世代）、FTUB プログラムのガイドラインに従って、人道プログラムを実施している。

(5) 個人

一部の個人がビルマの内外で、FTUB のプログラムのために活動している。安全のためにその人達の名前は極秘にされている。このような人びとは FTUB の人道プログラムのために、ビルマで起きていることに関する正しいデータと現在の情報を集め、また学校教育のためにサイクロンの被災者となった生徒と教師に、食糧、飲み水、医療機器、学校教育に必要なその他の必需品を提供する支援活動を行っている。

(6) 民主的組織との連携

DRCC / FTUB はさらに、NUCB とその傘下のグループ、様々なビルマ人移民社会の

特定のグループなど、様々な組織と協力してきた。

初期戦略としての活動の実施：

FTUB の DRCC はそのネットワーク（個人および特定のグループ）とともに活動しており、その一部は慈善団体である。これらのつながりは主にミラワディ、マエ・ソド、タイとビルマの国境地域を基盤としている。モン地域で活動している南部の唯一のグループは、サンカラブリを本拠地としている。現在、我々は特定のグループは個人と、個々に協力し、人道支援プログラムを実施している。

DRCC / FTUB の取り組み：

- (1) 社会事業 - ランゲーン（ビルマ国内）の 1 つの診療所、ランゲーンの 1 つの教育グループ（ビルマ国内）、ミラワディの僧侶の 1 団体（ビルマ国内）、サンカラブリ（パヤル・トン・ズの近くの国境地帯）の少数民族の 1 つのグループ、およびいくつかの特定の関連団体が、食糧、飲み水の浄水剤、様々な医薬品、貧しい生徒と貧しい教師のための学用品、およびその他の供給品を寄付し、もっとも深刻な被害を受けた地域の人々を支援することが出来る。最初は、我々は人びとに直接、援助物資を提供していた。
- (2) データと情報の収集 - FTUB のネットワークや現地の調査グループは現在、もっとも被害の大きかったランゲーン地区（最初はクン・チャン・ゴン、サンブヤ村、およびタンライン郡区）とイラワディ地区に入ろうとしている。この地域の最新の情報と正しいデータは滅多に得られない。
- (3) 再建 - 我々は人道的活動のみに焦点を当てており、困っている人びとを出来るだけ多く助けようとしているだけである。救済活動として被災地の長期的な再建が必要であると我々は考える。国連の援助計画や ASEAN グループ等の国際的圧力が影響を与えるという理由で、再建が制限されるべきではない。
- (4) 協調 - DRCC / FTUB はこれまでも今も、すでにビルマ国内に様々な関連グループを持っている。またマエ・ソドに本部を置く NUCB とその傘下組織とも協力している。

活動の制約：

- (1) ビルマ当局は、援助活動に参加している NGO と多くのグループが協力するのを阻止しようとしてきた。そのためにすべての援助は現地の役人を通して届けなければならなかった。サイクロン・ナルギスがビルマを襲ったときから、軍事政権はサイクロンの被災者に有効な支援を行ってこなかった。5 月 16 日に、PEDU（プーロン教育局）の 2 人の高名な僧侶が、データを入手し、記事や論文のための情報を得るために、サイクロンの被災地であるパテイン郡に派遣された。この 2 人は現地当局に阻止され、自分が住むカレン州、パー・アンに帰るよう強制された。1 人の僧侶は引き続き、イラワディ地区

でもっとも被害の大きかった地域の一つであるラップッタへ行こうとした。

- (2) しかしながら、他の特定の限られた地域に関しては、救援活動を行っている人びとは当局から、僧侶達と協力しないよう言われ、寄付の提供者は地区の指揮官を通して、経済援助を行うよう指示された。
- (3) 我々のもっとも被害の大きい地域に、支援物資の全てを一度に我々自身で届けることが出来なかった。現地当局が影響を及ぼし、権力で統制しようとしたためである。これらの理由の他に、ネットワークで連携しているグループの一部のメンバーが彼らだけでもっとも被害の大きかった地域に入り、援助を行い、データを集めようとした。
- (4) 我々も、我々の計画に沿って支援物資を届けるために出来る限りの努力を行った。軍事当局は依然として我々の運動の力と長期的な影響力を恐れている。
- (5) 被災者のための食糧、飲み水、医薬品および避難所が、適切な場所の適切な人びとに、間に合うように届かなかった場合には、病気による死亡という第二の波が生じる危険性が極めて高い。
- (6) 当局は我々のネットワークの一教育チームを妨害しようとした。(アウン・サン・スーチー氏の誕生日の前日の)2008年6月18日に、ナルギスの被災者を支援していたナイ・ラ教育チームのメンバー4人(ヌグウェ・パール、セイン・トエ、イエ・ティン、ミョ・ルイン)が、ティンガンギン郡で、当局に逮捕された。ラングーン、ティンガンギン郡の「ヒー・シー・コーヒーショップ」にいたところを、私服の当局に逮捕されたのである。逮捕直後に、当局は彼らの自宅の家宅捜索を行った。この4人は、ナイ・ラ教育チームとしてサイクロンの被災者のために救援活動を行っていたのである。当局は夜中まで家中を捜索し、4人を警察かどこかに連行し、一時的に拘束すると言った。当局はさらにコンピュータ、あらゆる種類のVCD、タン・シュエ議長の娘の結婚式のCD、サイクロンで破壊された生活に関するCD、1,200米ドル、アシン・ニャルネイク・タラ博士とアシン・カウウィグ博士が説く仏陀の教えのカセットテープ多数、および携帯電話2機を押収した。(4人が逮捕される前に、グループは全員でボガライ、マウピン、およびタンライン郡に行き、サイクロンの被害を受けた学校の貧しい生徒と教師に学用品と現金を提供した。タンライン郡では、さらに州合同の高校が全壊し、2008年6月の第一週に再開する必要があった。当局は全壊した学校に支援を行わなかった。ナイ・ラ教育グループはそれに間に合うように再建するために、支援を行っていた。)

マクロ - ミクロレベルの取り組みに関する見解

2008年5月19日、ASEANは、ニュースや情報がきわめて少ないことは、ASEANグループと外国の救援に役立たないと発表した、また2008年6月18日には、「世界はビルマにおけるASEANおよびその他の社会福祉の合同の努力を、未だに懐疑的に見ていることを強調した。国際社会は人道的な理由からも、ASEANと国連のビルマへの関与を厳しく批判している。(軍事グループの117億米ドルの当初の要求は、2008年6月以降、ビルマにお

ける国家レベルの腐敗のために、軍事政権の捜索・救援活動が未だに満足な結果を出していないとして不満を抱く寄付の提供者に、拒否されている。寄贈者が ASEAN や国連の裏書きをつけて小切手を切る前に、軍事政権がこの国で急速に成長しているエネルギー部門への最近の外国投資で得た資金のことを考えるほうが賢明である。)

2008年7月の第一週に、ニューヨークの国連ビルで、スリン・ピツワン博士はすでに、NGOや国際組織が活動をさらに拡大するためには、さらに多くの協力と物資の供給が必要であると提案した。これは本当に役立つだろう。ビルマの支配者達でさえ、荒廃したイラワディ・デルタおよびその他の被災地での再建・復興活動のために、緊急援助として、数十億ドルを西欧社会に求めている。そうでなければ、タイ、中国、韓国、インドなど、東側の地域貿易パートナーとの大規模な新しいエネルギー取引に投資しているだろう。

災害が起きるずっと前から、秘密主義で現金を豊かに持つ軍事政府が無視してきたサイクロンの被災地の再建のために、軍の代表が、サイクロン・ナルギスのために寄付金を要求したときには、外国の寄贈者はこのことを必ず考慮しなければならない。今やビルマの国民は、人道的悲劇と政治的悲劇の両方の犠牲者になっている。主な焦点は、サイクロンの被災者への人道支援でなければならない。ビルマの軍事政権は国民を残酷に扱って、その本性を再び見せたのである。数千人が自然災害に見舞われたというのに、政権は世界の他の国々が被災者に救援を行う権利を拒否したのである。それと同時に、軍事政権は、一部のもっとも被害の大きな地域ではある程度延期したものの、国の新しい憲法に関して予定されていた国民投票を実施したのである。

ビルマの市民社会は物理的および心理的に、明らかに弱体化された。経済はさらに長期に亘って苦しむだろう。

我々が引き続き検討すべき最も重要なことは、サイクロンの被災者の命をいかにして救うか、および国民の意欲を含めて国全体をいかにして再建すべきかということである。だからこそ、教育計画と保健衛生計画の実施によって、国全体を救うことが、我々の活動の役割なのである。民主戦線に資金提供を行うために活動を強化する可能性は、将来のビルマの成功と期待の一つの要素である。

写真説明（説明は英文 7 ページから、上段左から上右、中段左 - 右、下段左 - 右の順番）

ナグリス・サイクロン、救済活動に関する写真資料（DRCC - FTUB）

ラングーン地区、クンギャンゴン・サンブヤ村の被災者への食糧配給（2008 年 5 月 9 日）
ラングーン地区、クンギャンゴン・サンブヤ村で食糧の配給を受ける被災者（2008 年 5 月 9 日）

ラングーン地区、クンギャンゴン・サンブヤ村で援助を待つ被災者（2008 年 5 月 9 日）
5 月第 2 週にラングーン地区、ノース・ダゴン・ミョチトで被災者の治療にあたる医師達

5 月第 2 週にラングーン地区、ノース・ダゴン・ミョチトにおける被災者への医療支援
イラワディ地区、パテイン郡で寄付の準備（2008 年 5 月）

p.8

ナグリス・サイクロン、救済活動に関する写真資料（DRCC - FTUB）

ダイダイエで家を失った人びとの現実（2008 年 5 月）
ダイダイエの難民の家族（2008 年 5 月）

ダイダイエにおけるサイクロン被災者への人道支援（2008 年 5 月）
ダイダイエにおける僧侶による食糧の配給（2008 年 5 月）

ダイダイエにおけるサイクロン被災者への食糧配給（2008 年 5 月）
ダイダイエにおける寄付を受け取るための行列（2008 年 5 月）

p.9

ナグリス・サイクロン、救済活動に関する写真資料（DRCC - FTUB）

ダイダイエにおける食糧の配給（2008 年 5 月）
ダイダイエの難民への現金の支給（2008 年 5 月）

ダイダイエの難民への現金の援助（2008 年 5 月）
トウンタイのオー・ポー村で食糧と衣料品を配る FTUB のネットワーク組織（2008 年 5 月）

トウンタイのオー・ポー村で食糧と衣料品を配る FTUB のネットワーク組織 (2008 年 5 月)

マウラマイン・キュンで食糧援助を待つ人びと (2008 年 5 月)

p.10

ナグリス・サイクロン、救済活動に関する写真資料 (DRCC - FTUB)

マウラマイン・キュンで食糧援助を待つ人びと (2008 年 5 月)

臨時の避難所となった壊れた学校の前で食糧を待つ人びと、マウラマイン・キュン (2008 年 5 月)

マウラマイン・キュンの僧院の避難民 (2008 年 5 月)

マウラマイン・キュンの僧院の避難民 (2008 年 5 月)

栄養不良のためにもっと援助を必要としている母子、マウラマイン・キュン (2008 年 5 月)

サウス・ダゴンで援助を待つ難民 (2008 年 6 月)

p.11

ナグリス・サイクロン、救済活動に関する写真資料 (DRCC - FTUB)

サウス・ダゴンで 3 ピイ (1 ピイが 0.25 リットル) の米の寄付を準備する人びと (2008 年 5 月)

サウス・ダゴンで援助を求める幼い少女 (2008 年 6 月)

サウス・ダゴンでは、至る所にサイクロンの難民がいる (2008 年 6 月)

サウス・ダゴンでのサイクロン難民への米の援助 (2008 年 6 月)

サウス・ダゴンから来た難民の子供達 (2008 年 6 月)

フリネタヤの臨時の避難所、国家当局が支給したものではない (2008 年 6 月)

p.12

ナグリス・サイクロン、救済活動に関する写真資料 (DRCC - FTUB)

難民への直接の米の配給、フリネタヤ (2008 年 6 月)

難民への直接の米の配給、フリネタヤ（2008年6月）

FTUBの支援グループがフリネタヤに入っていた（2008年6月）（当局に身元が知られる恐れがあるために、支援グループの写真を出すことは出来ない）
フリネタヤのFTUBのボランティア（2008年6月）

米と卵の配給、フリネタヤ（2008年6月）
援助物資を受け取る高齢の難民（2008年6月）

p.13

ナグリス・サイクロン、救済活動に関する写真資料（DRCC - FTUB）

フリネタヤの難民への米と卵の配給（2008年6月）
フリネタヤの難民への米と卵の配給（2008年6月）

FTUBネットワークによる手渡しの寄付は最も有効、フリネタヤ（2008年6月）
ダイダイエのサイクロンの被災地域に外付けモーターの舟で出向こうとするFTUBの援助グループ（2008年6月）

外付けモーターの舟はサイクロン被災地では非常に有用で、FTUBの援助グループは通常、モーターをつけていた（2008年6月）
FTUBのネットワークの援助を待つサイクロンの被災者（2008年6月）

p.14

ナグリス・サイクロン、救済活動に関する写真資料（DRCC - FTUB）

土砂降りの中、援助を待つサイクロンの被災者、イラワディ地区、ダイダイエ（2008年6月）
壊れた家で援助を待つ被災者（2008年6月）

集まって援助を待つ難民の子供達、ダイダイエ（2008年6月）
老人も苦しんでいる、チャウングワ、ダイダイエ（2008年6月）

ダイダイエ、オー・ポー村で援助を待つために集まっている難民（2008年6月）
オー・ポー村の幼い子供を含めた難民（2008年6月）

p.15

ナグリス・サイクロン、救済活動に関する写真資料 (DRCC - FTUB)

FTUB のネットワークからの現金の寄付、オー・ポー村 (2008 年 6 月)

FTUB ネットワークがオー・ポーの被災地に到着した。(2008 年 6 月)

不 t b ネットワークによる高齢者への現金援助 (2008 年 6 月)

ラングーン地区からの一部の難民が外国の援助によって避難所の援助を得るが、全員には行き渡らない (2008 年 6 月)

生存したことは幸運、でも生きていくのは大変、クンギャンゴン (2008 年 6 月)

生存したことは幸運、でも生きていくのは大変、クンギャンゴンにおける栄養不良 (2008 年 6 月)

p.16

ナグリス・サイクロン、救済活動に関する写真資料 (DRCC - FTUB)

クンギャンゴンではサイクロン後に、貧しい人がさらに貧しく、(2008 年 6 月)

サイクロン後に、より多くの被災者が栄養不良に、クンギャンゴン (2008 年 6 月)

クンギャンゴンではサイクロン後に、貧しい人がさらにホームレスに (2008 年 6 月)

FTUB ネットワークはビルマの軍当局が同情することなく配った腐った米を回収

タイ、カンチャナブリのヴィタ果物工場で働くビルマの移民がサイクロンの被災者のために現金を寄付

ネットワークのメンバーが、イラワディ地区の仏教の僧院で、仕切を増やすよう求めて話し合う

p.17

ナグリス・サイクロン、救済活動に関する写真資料 (DRCC - FTUB)

FTUB ネットワークからの現金の援助 (イラワディ)

FTUB ネットワークからの現金の援助 (イラワディ)

イラワディ地区で、援助を求めて道路に群がる人びと
合同高校は教育できる状況ではなく 2008 年 6 月の再開までにまだ改善が必要

FTUB のメンバーはビルマの若い世代を懸念している
サイクロンの被害が最も大きかった地域に入ろうとする FTUB ネットワークのメンバー